

この一月間、敵帝国主義・シオニストは、あらゆる戦線において、中東の反帝・反シオニスト戦線でインシアチブを發揮するシリアに対する

この一月間、敵帝国主義・シオニストは、あらゆる戦線において、中

東の反帝・反シオニスト戦線でインシアチブを發揮するシリアに対する

この一月間、敵帝国主義・シオニ

シリアル包囲強める米帝—イスラエル

一九八六年一〇月一〇日

一 ペレス—ムバラク会談の目的

七月下旬のペレス—ハツサン会談、エジプトの「第二次五カ年計画」、政治・経済・軍事包囲を強めてきた。九月頭のタバ交渉調停方式合意から、レバノン・パレスチナ問題、アラブ・イスラエル首脳と会談するアラブ首脳としては、三人めとなる。

この間報告してきたごとく、四月は八六年に到つて、国家テロルの発動に訴えてまで、米帝に従わぬ人民・国家をテロリストとして攻撃している。今号では、動乱の中の特徴的な発展を拾い出し、敵・味方の攻防

の焦点、根拠をつかんでいこう。

に加え、中東経済、市場の再編攻勢にも出てきている。「中東マーケット・プラン」、「西岸開発五カ年計画」、

ペレスは、ムバラクとの会談に臨んだ。サダトのエルサレム訪問から、

ペレスは、ムバラクとの会談に臨んだ。サダトのエルサレム訪問から、



第 17 号

発行 ウニタ書舗
東京都千代田区神田神保町1-52
TEL. (03)291-5533
編集 J.R.A.
郵便振替 東京1-48443
三菱銀行神保町支店 当座9012656
会員制 年会費20000円

目次

シリアル包囲強める米帝—イスラエル.....	1
アブダッラ・ディアブ(資料①).....	5
イスラエル主要閣僚会議が採択したタバ問題に関する決議(資料②).....	9
ペレス—ムバラク会談への反応(資料③).....	9
レバノン各派の見解(資料④).....	10
激動の中東ドキュメント(1986年9月1日～10月2日).....	13
編集後記.....	18

在の特徴は、①エジプトのアラブへイのリビア爆撃以来、米帝は、「反テロ」キャンペーンの政治・軍事攻勢ること、②アフリカ南部における解

放闘争の高揚が南アのアパルトヘイト体制の破壊を宣告しているのに対

して、イスラエルを通じてこ入れ

が、経済面で進んでいること(米

・イスラエルの自由貿易協定をかくれみのとして、南アへの経済制裁対抗措置をとる。アフリカ反動諸国とイ

帝—米帝—イスラエルがアフリカの進歩的民族政権に対抗する）、③中東—アフリカを結ぶイスラエルのNATO化がより戦略的地位を高めること等である。

イスラエルは、域内平和、経済協力、投資、開発、国家の発展を、米帝主導・欧帝賛同の帝国主義経済への地域的再編によって行おうとしている。この点で、エジプトの支配階級、およびその代理人たるムバラクとペレスは一致しているのである（資料①参照）。

イスラエルにとって、レバノン侵略戦争、PLOの物質基盤、政治力破壊という冒險主義は、従来の侵略領土拡大方式ではもはや延命できなといふ苦い教訓であった。とくに、エジプトとの「冷たい平和」で、野画通りにいかないことに成了した。エジプトとの関係改善をかちとり、正式にアラブ市場再分割戦に登場するペレスの目的であった。このために、イスラエル挙国一致内閣は、今年はじめに、戦術を一致させてきたし、タバ交渉、ペレス—ムバラク会談の進展も、この戦術に沿って進んでいられるといえる（資料②参照）。

(二) 対米政策

シャミルは、より短期的なイスラエルの国益をかちとるとして、矛盾を大きくしていくことになる。こうした一見「民主的」ペレスの政策に、シャミルは、反対している。ところに、領土上の譲歩については、「寸土たりとも渡さない」姿勢を保つていて。入植村を増設し、ハイテク産業を主要入植地に誘致し、あくまで「鉄拳政策」一本槍で強硬に西岸、ガザ、ゴランを占領し続ける政策をとることが予測される。

的に入アラブ市場に侵略していくシステム作りに力を入れているといえよう。

こうした一見「民主的」ペレスの政策に、シャミルは、反対している。ところに、領土上の譲歩については、「寸土たりとも渡さない」姿勢を保つていて。入植村を増設し、ハイテク産業を主要入植地に誘致し、あくまで「鉄拳政策」一本槍で強硬に西岸、ガザ、ゴランを占領し続ける政策をとることが予測される。

系において、今後、多くの矛盾が予測される。米帝は、シャミルが独走せぬよう、圧力をかけるであろう。ところに、占領地への投資拡大は、イスラエル国内経済再編を遅らせるものになる。

三 レバノン内戦長期化の陰謀

レバノンでは、シリアの内戦終結努力に対して、敵の策動が顕著である。第一には、「対話委員会」の行き詰まりである。九月一六日の会議で、シャムーノンが、ホス提案を暴いたことから、紛糾した。ホス提案は、「八月一日のレバノン建軍記念日」のアミン演説と同じ定義であり、ジュネーブ会議後の最終決定そのままである（ホス）。つまり、「シリアとの特別な関係」と、レバノンの「アラブとしての性格規定」をめぐり、右派が反対しているというこ

はきたが、英・米帝国主義の力を借りて、レバノンの宗派別権益制度の保持を第一にしてきた。なぜなら、

ミルに首相交代予定日である。イスラエル政府としては、二一世紀への延命を、米帝との戦略同盟関係強化

のための、パレスチナ人の民族自決権行使、パレスチナ独立建国につ

いては、ペレス、ムバラクとも「国際会議」で「交渉」を主張している。

ここで、タバ調停方式に注目しておくる必要があるだろう。双方代表（国

際法学者）が、第三国の代表三人を選出して、交渉するというものであ

る。実に「民主的」である。侵略者との「共同統治」政策は、一定の領

土上の譲歩を展望したものである。

レバノン南部も、タバ方式で「交渉」していこうという狙いがある。

もちろん、パレスチナに関しては、

「交渉」主体をPLOとしないこと、

ムバラクとも、米帝の要求する経済をもって対米交渉に臨む時でもあ

る。すなわち、ペレスは、ムバラクとの会談後、訪米し、シュルツ、レ

ーイアンとの会談を行っている。ここで、「国際会議にソ連の参加を認めない」ことを明らかにしている。エ

ジプトのほうは、九月中旬に経済企画相率いる代表团を訪米させ、対米

軍事借款利子の五〇%削減（もともと、米帝が一四%というサラ金並の

利子で貸したのに対し、普通の利子にせよと「交渉」するだけだが）、

一括繰りのベの交渉に入った。ここで、タバ調停方式に注目しておくる必要があるだろう。双方代表（国

際法学者）が、第三国の代表三人を選出して、交渉するというものであ

る。実に「民主的」である。侵略者との「共同統治」政策は、一定の領

土上の譲歩を展望したものである。

レバノン南部も、タバ方式で「交

渉」していこうという狙いがある。

もちろん、パレスチナに関しては、

「交渉」主体をPLOとしないこと、

ムバラクとも、米帝の要求する経

済をもって対米交渉に臨む時でもあ

る。すなわち、ペレスは、ムバラクとの会談後、訪米し、シュルツ、レ

ーイアンとの会談を行っている。ここで、「国際会議にソ連の参加を認めない」ことを明らかにしている。エ

ジプトのほうは、九月中旬に経済企

画相率いる代表团を訪米させ、対米

軍事借款利子の五〇%削減（もともと、米帝が一四%というサラ金並の

利子で貸したのに対し、普通の利子にせよと「交渉」するだけだが）、

一括繰りのベの交渉に入った。ここで、タバ調停方式に注目しておくる必要があるだろう。双方代表（国

際法学者）が、第三国の代表三人を選出して、交渉するというものであ

る。実に「民主的」である。侵略者との「共同統治」政策は、一定の領

土上の譲歩を展望したものである。

レバノン南部も、タバ方式で「交

渉」していこうという狙いがある。

もちろん、パレスチナに関しては、

「交渉」主体をPLOとしないこと、

ムバラクとも、米帝の要求する経

済をもって対米交渉に臨む時でもあ

る。すなわち、ペレスは、ムバラクとの会談後、訪米し、シュルツ、レ

ーイアンとの会談を行っている。ここで、「国際会議にソ連の参加を認めない」ことを明らかにしている。エ

ジプトのほうは、九月中旬に経済企

画相率いる代表团を訪米させ、対米

軍事借款利子の五〇%削減（もともと、米帝が一四%というサラ金並の

利子で貸したのに対し、普通の利子にせよと「交渉」するだけだが）、

一括繰りのベの交渉に入った。ここで、タバ調停方式に注目しておくる必要があるだろう。双方代表（国

際法学者）が、第三国の代表三人を選出して、交渉するというものであ

る。実に「民主的」である。侵略者との「共同統治」政策は、一定の領

土上の譲歩を展望したものである。

レバノン南部も、タバ方式で「交

渉」していこうという狙いがある。

もちろん、パレスチナに関しては、

「交渉」主体をPLOとしないこと、

ムバラクとも、米帝の要求する経

済をもって対米交渉に臨む時でもあ

る。すなわち、ペレスは、ムバラクとの会談後、訪米し、シュルツ、レ

ーイアンとの会談を行っている。ここで、「国際会議にソ連の参加を認めない」ことを明らかにしている。エ

ジプトのほうは、九月中旬に経済企

画相率いる代表团を訪米させ、対米

軍事借款利子の五〇%削減（もともと、米帝が一四%というサラ金並の

利子で貸したのに対し、普通の利子にせよと「交渉」するだけだが）、

一括繰りのベの交渉に入った。ここで、タバ調停方式に注目しておくる必要があるだろう。双方代表（国

際法学者）が、第三国の代表三人を選出して、交渉するというものであ

る。実に「民主的」である。侵略者との「共同統治」政策は、一定の領

土上の譲歩を展望したものである。

レバノン南部も、タバ方式で「交

渉」していこうという狙いがある。

もちろん、パレスチナに関しては、

「交渉」主体をPLOとしないこと、

ムバラクとも、米帝の要求する経

済をもって対米交渉に臨む時でもあ

る。すなわち、ペレスは、ムバラクとの会談後、訪米し、シュルツ、レ

ーイアンとの会談を行っている。ここで、「国際会議にソ連の参加を認めない」ことを明らかにしている。エ

ジプトのほうは、九月中旬に経済企

画相率いる代表团を訪米させ、対米

軍事借款利子の五〇%削減（もともと、米帝が一四%というサラ金並の

利子で貸したのに対し、普通の利子にせよと「交渉」するだけだが）、

一括繰りのベの交渉に入った。ここで、タバ調停方式に注目しておくる必要があるだろう。双方代表（国

際法学者）が、第三国の代表三人を選出して、交渉するというものであ

る。実に「民主的」である。侵略者との「共同統治」政策は、一定の領

土上の譲歩を展望したものである。

レバノン南部も、タバ方式で「交

渉」していこうという狙いがある。

もちろん、パレスチナに関しては、

「交渉」主体をPLOとしないこと、

ムバラクとも、米帝の要求する経

済をもって対米交渉に臨む時でもあ

る。すなわち、ペレスは、ムバラクとの会談後、訪米し、シュルツ、レ

ーイアンとの会談を行っている。ここで、「国際会議にソ連の参加を認めない」ことを明らかにしている。エ

ジプトのほうは、九月中旬に経済企

画相率いる代表团を訪米させ、対米

軍事借款利子の五〇%削減（もともと、米帝が一四%というサラ金並の

利子で貸したのに対し、普通の利子にせよと「交渉」するだけだが）、

一括繰りのベの交渉に入った。ここで、タバ調停方式に注目しておくる必要があるだろう。双方代表（国

際法学者）が、第三国の代表三人を選出して、交渉するというものであ

る。実に「民主的」である。侵略者との「共同統治」政策は、一定の領

土上の譲歩を展望したものである。

レバノン南部も、タバ方式で「交

渉」していこうという狙いがある。

もちろん、パレスチナに関しては、

「交渉」主体をPLOとしないこと、

ムバラクとも、米帝の要求する経

済をもって対米交渉に臨む時でもあ

る。すなわち、ペレスは、ムバラクとの会談後、訪米し、シュルツ、レ

ーイアンとの会談を行っている。ここで、「国際会議にソ連の参加を認めない」ことを明らかにしている。エ

ジプトのほうは、九月中旬に経済企

画相率いる代表团を訪米させ、対米

軍事借款利子の五〇%削減（もともと、米帝が一四%というサラ金並の

利子で貸したのに対し、普通の利子にせよと「交渉」するだけだが）、

一括繰りのベの交渉に入った。ここで、タバ調停方式に注目しておくる必要があるだろう。双方代表（国

際法学者）が、第三国の代表三人を選出して、交渉するというものであ

る。実に「民主的」である。侵略者との「共同統治」政策は、一定の領

土上の譲歩を展望したものである。

レバノン南部も、タバ方式で「交

渉」していこうという狙いがある。

もちろん、パレスチナに関しては、

「交渉」主体をPLOとしないこと、

ムバラクとも、米帝の要求する経

済をもって対米交渉に臨む時でもあ

る。すなわち、ペレスは、ムバラクとの会談後、訪米し、シュルツ、レ

ーイアンとの会談を行っている。ここで、「国際会議にソ連の参加を認めない」ことを明らかにしている。エ

ジプトのほうは、九月中旬に経済企

画相率いる代表团を訪米させ、対米

軍事借款利子の五〇%削減（もともと、米帝が一四%というサラ金並の

利子で貸したのに対し、普通の利子にせよと「交渉」するだけだが）、

一括繰りのベの交渉に入った。ここで、タバ調停方式に注目しておくる必要があるだろう。双方代表（国

際法学者）が、第三国の代表三人を選出して、交渉するというものであ

る。実に「民主的」である。侵略者との「共同統治」政策は、一定の領

土上の譲歩を展望したものである。

レバノン南部も、タバ方式で「交

渉」していこうという狙いがある。

もちろん、パレスチナに関しては、

「交渉」主体をPLOとしないこと、

ムバラクとも、米帝の要求する経

済をもって対米交渉に臨む時でもあ

る。すなわち、ペレスは、ムバラクとの会談後、訪米し、シュルツ、レ

ーイアンとの会談を行っている。ここで、「国際会議にソ連の参加を認めない」ことを明らかにしている。エ

ジプトのほうは、九月中旬に経済企

画相率いる代表团を訪米させ、対米

軍事借款利子の五〇%削減（もともと、米帝が一四%というサラ金並の

利子で貸したのに対し、普通の利子にせよと「交渉」するだけだが）、

一括繰りのベの交渉に入った。ここで、タバ調停方式に注目しておくる必要があるだろう。双方代表（国

際法学者）が、第三国の代表三人を選出して、交渉するというものであ

る。実に「民主的」である。侵略者との「共同統治」政策は、一定の領

土上の譲歩を展望したものである。

レバノン南部も、タバ方式で「交

渉」していこうという狙いがある。

もちろん、パレスチナに関しては、

「交渉」主体をPLOとしないこと、

ムバラクとも、米帝の要求する経

済をもって対米交渉に臨む時でもあ

る。すなわち、ペレスは、ムバラクとの会談後、訪米し、シュルツ、レ

ーイアンとの会談を行っている。ここで、「国際会議にソ連の参加を認めない」ことを明らかにしている。エ

ジプトのほうは、九月中旬に経済企

動の指導力形成が、指導主体の二重の任務としてあるのである。民族指導部は、幅広いほうがいいし、パレスチナ建国、民族自決権行使という点では、多くの潮流が参加してくる。その分、個別利害は、矛盾していくのである。個別利害に拝跪していく現状に対し、常に戦略的布石を敷きながら、独自力量を蓄積していくことが、指導主体のめざしている点である。とくに、被占領地内で、買弁ブルジョアジーが「PLO」とてかわるパレスチナ代表」として政治的・経済的に暗躍し出している現在、被占領地内パレスチナ人民にとっては、国外のPLOが明らかな展望と、新たな組織体制をもつて、再び統一をかちとること、これが毎日の抑圧、貧困との闘い、反イスラエル闘争の

への軍事的・政治的・經濟的包囲網が強化されている点をとらえておこう。敵がシリアを集中攻撃しているのも、シリアがそれだけ米帝のキャンプ・デービッド策動（すなはちアラブ－イスラエル統合支配）に対決し、自力更生經濟、互恵の經濟関係軍隊の近代化、國民生活の計画的向上、文化の發揚等をもって、帝国主義・ショニズムに屈しない國家建設を進めているからである。バース党は、アラブ民族の統一、解放、社會主義建設を戰略目標として、シリアを建国している。もちろん、民族政権である以上、古典的性格もまだもつてはいるが、敵に不斷に包囲され攻撃を受けながら建国している分、反帝へ、反帝へと立場を固めざるをえない。問題は、アラブの進歩的民

アフターラ・ティアフ

と呼びかけている。敵の攻撃が新しい段階に達したのに對し、味方も、新しい對峙に備えて、いこうとしている。

P L O が正義性のある闘いを展開すること、世界中の反帝・進歩潮流がそうした P L O 支持を物心両面で支援ぬくことが問われていよう。矛盾があるから発展する、この法則をしつかりつかんで、パレスチナ人民が建設してきた自らの代表 P L O 。 P L O は、再統一過程を、前進していく

族政権、党、諸勢力が、米帝—イスラエルの国家テロルに対し、まず反帝での統一を作ること、国家、党主体、人民という各々の位相において、反帝を明らかにした鬨いをくんでいくことが問われているのである

クは言い張ってきた。また、野党リーダーとの会見でも、エジプトの経済困難を克服するには、米国、国際金融機関と特別な関係をもたねばならぬと、主張した。そういう国際金融機関というのは、新植民地主義を代表しているのだ。ともかく、イスラエルのリーダーと直接会わねばならぬようなことになつたら、死んで

バノン・パレスチナ勢力の共闘が敵の妨害活動にあって、若干困難になってきた。まだまだ歴史的な関係性が十分乗り越えられてもいい分、個別利害を前にすると、味方内の矛盾になってしまふことが多い。さらに、戦略は一致しえても、戦術上の不一致、利害の不一致は、不斷にある。これを統一して、最も有効な闘い方を作る主体が指導力を蓄積していくであろう。

四 國際レベルの反シリア「反テロ」キャンペーン

事件の裁判が、近くロンドンで開かれることになっている。帝国主義の側は、もともとのテロルはイスラエルが始めたということをすっかり忘れたふりをして、シリアに対して「反テロ」キャンペーンをかけてくるだろう。そして、そのキャンペーンが

四 國際レベルの反シリアル

主権ももたないバレスチナ人とを敵対矛盾の中に追いこまんがためである。

キャンプ戦争は、ベイルートで二年続いて起つたが、南部では、これがはじめてである。南部では、イスラエル、「SLA」、ジャジーンに陣どるクリスチヤン右派といふ敵を目前にしてきた分、共闘がぐみやすい側面があつた。敵が明らかであったのである。ところが、「対話委員会」による交渉が進み、セキュリティ・プランが角下するに従い、

チャン右派内に「元的支配権再確立を狙っているし、自らの権益保持のために、民族派との一定の妥協も辞さないであろう。ジャジャは、これに対抗し、独自の軍事・経済・政治力量を作りつつある。この時点でその矛盾を利用して、ホベイカが攻めこんだのであろう。

国家テロの発動をも含むてあらうことは、レーガンのやり方からして大いに予想できるものである。

(六) 政治的組織的に違法とみなす
　ハッサン二世政権が展開していく
る陰謀を暴露し、有効な方法によ
つてボイコットする。

(七) 被占領地内の疑わしき、かつ反
動分子に対して、断固たる政策を

④ アンマン合意を明確、かつ公式に破棄し、エジプト（キャンプ・デービッド国）との関係を断つこと。

（パレスチナの）民族的合意、第一六回までのPNCが採択した合法的諸決議に責任をもつこと。

アンマンPNC（第一七回）は、

レバノンの民族運動との戦士的関係を強化・発展させ、敵をうち砕くために、レバノン一パレスチナーシリアの反帝・反シオニズムの組織再編も、民主化を要に行おうとして再統一されていくための組織再編も、反反動の闘いを發展させる。

だのは、現在の連立与党である。少なめの見積りでも、八六年段階で、エジプトの対外負債は三四〇億ドル。八八年には、このほとんどの元金返済期に入る。この借入金は、赤字補填に当てられた。帝国主義と IMFは、エジプトが赤字是正しにくいように、外国資本により大きな譲歩を与える以外なす術がなくなるよう、金を貸したのである。その最たるものは「G M（ゼネラル・モーターズ）」の例であろう。G Mの交渉に、次の段階に入ったことが示されている。すなわち、帝国主義は、エジプト経済の一定の部分を完全に支配する段階に入ったということだ。二年前、ムバラクは「一〇〇%エジプト国産車」と叫んだが、我々はその二年前に戻ることになる。食べる小麦すらほとんど自力更生できない国が、国産車を作るというわけか？ともかく、政府は、この初の一〇〇%国産車生産の入札社を公募し、多くの多国籍企業が入札。最安値で入札したG Mが落札した。というのもエジプトの対外負債、とくに軍事負債は年間六億ドルにのぼるからだ。国際金利は7%以下なのに、エジプトは米に一三・一四%の利子を払う仕組みになっている。八五年度、エ

ジプトは対米軍事負債（これだけで五億五〇〇〇万ドル）返済ができないかったが、ワシントンは、払わないと次期援助を止めると言った。どうやって、この援助—負債—返済のための再負債というわなから解放されるのだろうか？ エジプトが対米負債返済できるようにするため、米政府は、米系銀行に利子二〇%でエジプトにローンを与えるよしと許可したものだ。

う風にみてもらいたかったので、タバ問題が未解決な期間は、イスラエルとの関係を凍結させようと画策した。つまり、「冷たい平和」というわけで、これを本当の和平、すなわち、完全承認——一片の土地(タバ)に關してイスラエルが国際的調停役エジプト領土問題解決についてもしに連れてくる権利をも含んで——へと転化させていくというわけである。この原則が適用すると、次には、パレスチナの一部(西岸とガザ)、ゴラン高原、ヨルダン、その他と、同じ方式でやれることになる。そしてこの「冷たい平和」がだんだん本物の平和に転化しているわけだが、中東マーシャル・プランとの関連で見ていかねばなるまい。このプランは米帝の足下に中東全域を屈服させることが狙いで、戦略同盟関係にあるイスラエルは、当然、大役を割り当てられている。同プランは、個別パレスチナの大義、パレスチナ民族解放闘争抹殺を狙うばかりか、エジプト、シリア、そして全アラブ国のアラブ民族解放運動抹殺を企てるものである。

エジプトに圧力をかけ、孤立させようといふ意見の二種類がある。どちらも無益だと思う。エジプト政権の（階級的）性格をおさえておこう。大ブルジョアジー（封建主義者、産業・金融支配層）を代表している政権であるし、寄生ブルジョアジー的様相を呈し、官僚機構を牛耳り、公共部門搾取によって肥大してきた。外国資本、なかでも米資本と有機的に結合している。どんな圧力をかけたところで、そういう性格の政権が反帝を基準とするアラブ陣営に戻ってくる可能性を云々するのは、自己矛盾というものがわかる。しかも、そうした論議になると自体、サダトとムバラクを区別する幻想によるものだらう。サダトはナセル派の一員であつたがクーデターでナセル主義をくつがえしたから、ムバラクもキャンップ・デービッドの一員であったとしても、反キリスト・デービッド・クーデターをやれるのではないかという人がいる。が、これは、夢想である。条

「主主義」の限界を越え、「暗い運命」を覺悟せねばならぬということになつてゐた。「暗い運命」とは、アブ・ガザーラ（国防相）のクーデターの可能性を示している。

しかし、クーデターの可能性は、大変限られたものでしかない。第一に、ムバラク自身が軍の一部である。第二に、アメリカ政府は、複数政党制で、自由主義政権（主要に二大政黨が連立を組み、権力につく形）をもはや反対しない。ラテン・アメリカの軍事政権の経験から苦い教訓を得ているから。その二大政党は、同一階級を代表し、同じ目的をもち、しかし、政権を時々交代するし、他の諸党派は、お飾りである。エジプトの場合、その二大政党とは、国民党とワフド党である。したがつて、「民主主義」か、クーデター軍部独裁かとおどしをかけるのも、民族主義的・民主的勢力をゆする手口でしかない。

第三に、経済門戸開放政策。八二年二月、ムバラクは、経済大会を開き、消費物資輸入の門戸開放政策を国内生産のための門戸開放政策に転換した。実際には、サダトが暗殺される二年前から、主張していたことだが。それに、サダトも寄生ブルジ

ヨアジーを非難したものだ。ただし
あやふやな概念、まだ十分規定され
ていない、特定の個人が代表してい
るものでない等とも言つていたが。
ともかく、ムバラクは、特權的エリ
ートのためにではなく、限られた収
入しかない大衆のためにエジプトの
国内産業振興をぶち上げた。そうす
れば、輸入依存度をおさえることに
なるとも言つた。が、自由主義的人
士が提出したのも含めて、同大会で
出された建設的な提案は、全て、け
られたのだった。八五年二月の大会
は、ムバラクが約束したもの全てが
真逆になつたことを確認している
階級間の差異、貧困大衆の搾取は、
世銀の指示通り、悪化する一方であ
る。世銀とは、どこの国の経済危機
解決もめざしていないし、貧困大衆
の重荷をますます大きくしていくこ
とに、骨をおつてゐる。で、公共部
門労働者のうち一〇万人以上が、政
府のやり方に反対して、一連のスト
ライキに立ち上った。労働者は経済
的スローガンを掲げ、工場、オフィ
ス所有者に、そして国家にぶつかっ
て行つたが、彼らのストライキは、
政治闘争に転化した。

ペレスームバラク会談を結果させたのであるといえよう。サドトのエルサレム行きも、七八年一月一八日し一九日の大衆的蜂起の後に起こった点を指摘したい。今回のエジプト－イスラエル首脳会議も、多くの蜂起やストの後に行われている（たとえば、エル・ムハッラの労働者スト、鉄道労働者のスト、中央保安軍の蜂起など）。

別の視点からとらえてみよう。過去二一二二年間の生産政策は、自由（競争）の資本主義の発展であった。そして、投資の必要性と、調達できる資金のギャップを埋めるのに、外国、アラブ資本に依存していく構造を作った。外国、アラブ資本流入のおかげで、技術的躍進をかちとつたものの、外国からのエジプト投資は外国資本のコントロールを意味し、結局帝国主義陣営への金融依存をもたらしている。帝国主義は、決して先進技術を渡してくれなかつた。技術に関しては統制権を握つて放さず、副次的産業についてのみ帝国主義の技術を使わせてくれているが。もちろん、主要利益は、多国籍企業と外國資本がとり、地元の資本家がとるのは、ほんの少しでしかない。ムバラク政権時代に、民族主義的、

進歩的運動の体制從屬化が「いぶん
進行した。多くの民族主義的、進歩的
運動が政府の主張を受け入れ、エジ
プト經濟危機解決のための上からの
強力な資本主義システム導入にかけ
るようになつた。しかし、後進国を
救出できるのは、社会主义システム
しかないことは、我々の知るところ
である。外国資本を人々が受け入れ
易いように、資本主義システムが救
国の要であると望まねばならない。
エジプトが入手したあらゆる援助は
階級的、社会的、政治的隸属過程の
終了まで經濟を浮動化させておくた
めである。今日、エジプトは、際限
ない負債の循環構造に組み入れられ
ており、海外輸入に依存して生きて
いる。たとえば、食糧の四〇%、小
麦の七五%は輸入でまかなつてている
現状にある。エジプトを從屬させる
一つの方便が、食糧問題である。エ
ジプトは、欧から小麦を輸入し、い
ちごを輸出しているが、これは二重
の隸従である。欧は、エジプト産い
ちごを欧州市場に出す前に消毒を義
務づけている。エジプトに政治圧力
をかけようと思えば、いちごの輸入
を止めればよいのだ。対エジプト輸
出も、欧が最終決定権をもつてゐる。
この構造にエジプトを引きずりこん

東地域にイスラエルのヘゲモニー確立を許すもの。これは、パレスチナの大義をシオニズムが弾圧するのに対し、アラブの反動国家元首がシオニズム国家と連携しているということを明らかにした」（一〇月一三日）

三、レバノンのカラミ首相の表明「キャンプ・デービッド陰謀の新しい一步であり、アラブ民族に対するヘゲモニー確立へ向けたもの。国際和平会議を提唱し、その準備委員会設立等と、もつともらしいものの、要はシオニズムでアラブ世界を統合していこうとしている」（一〇月一三日）

四、リビア

ムバラクを裏切者と規定し、米帝、

イスラエルの中東支配に隸属していく

ると、エジプト批判。

五、アラブ諸国各紙も、こそつて非

難。ちなみにヨルダーンのアル・ライ

紙も

「このサミットは、イスラエルの

ゆすりである。この黒幕はペレスと

マーフィー。タバ領をエジプトが回

復し、パレスチナ問題が本当に解決

に向けて動き出す前に、エジプトと

の国交正常化でイスラエルが得をす

ることを狙つたもの」

シリア、アルジェリア等も、非難。

ハジビッラー、アマルレベルでの

組織決定ではない。

④ U N I F I L 仮部隊は撤退して

しまうだろうか？

個人的意見だが、今次の U N I

F I L 駐留期限が切れるまでは、

撤退しないのではないか。敵

の侵略行為に抗しきれずに引いた

内その他事情等から判断するに。

U N I F I L 撤退後、南部はどうなるか？

どんなことが起ころうと、終局

的には、侵略者を追い払っていく。

南部人民は過去一二年間、悲惨な

めにあってきたから、犠牲はでき

るだけ少なくしてやつていただきたい

が。

つまり、アマルが決議四二五支

持を出したのは、U N I F I L が

イスラエルの撤退をかちとり、し

かも対イスラエル・レジスタンス

をかけた場合に予測されるイスラ

エルの大量報復から免れると判断

したからである。

U N I F I L 撤退後、イスラエ

ルが即「セキュリティ・ゾーン」

拡大に出るとは考えない。むしろ、

そして我々自身とが、何とか対立

するの関係を拒否することによって、

マロン派の特権と支配権をあくま

東地域にイスラエルのヘゲモニー確立を許すもの。これは、パレスチナの大義をシオニズムが弾圧するのに対し、アラブの反動国家元首がシオニズム国家と連携しているというこ

とを明らかにした」（一〇月一三日）

三、レバノンのカラミ首相の表明

「キャンプ・デービッド陰謀の新

しい一步であり、アラブ民族に対するヘゲモニー確立へ向けたもの。国

際和平会議を提唱し、その準備委員会設立等と、もつともらしいものの、

要はシオニズムでアラブ世界を統合していこうとしている」（一〇月一三日）

四、リビア

ムバラクを裏切者と規定し、米帝、

イスラエルの中東支配に隸属していく

ると、エジプト批判。

五、アラブ諸国各紙も、こそつて非

難。ちなみにヨルダーンのアル・ライ

紙も

「このサミットは、イスラエルの

ゆすりである。この黒幕はペレスと

マーフィー。タバ領をエジプトが回

復し、パレスチナ問題が本当に解決

に向けて動き出す前に、エジプトと

の国交正常化でイスラエルが得をす

ることを狙つたもの」

シリア、アルジェリア等も、非難。

ハジビッラー、アマルレベルでの

組織決定ではない。

④ U N I F I L 仮部隊への攻撃は、

イスラエル寄りのあり方（イスラ

エル・レジスタンスの活動は規制・

妨害するのに、イスラエルに対し

ては手をこまねいている）に対する

人民の怒りの表現。

④ シラク政権評価

イランとの関係修復に着手した

という点で、前の仏政府より前進

した。しかし、もつと本腰を入れ

て、対イラン関係改善を進めてほ

しい。

④ イランとの関係修復に着手した

という点で、前の仏政府より前進

した。しかし、もつと本腰を入れ

て、対イラン関係改善を進めてほ

四 元蔵相（七〇年代）のサバ博

財政赤字（とくに公共部門）をおさえるためと、利率を高くしているが、むしろ逆であろう。ボンドの急落は、高金利で解決するより、地場産業を振興させ、それによって信用をつけるほうがよい。

しかも、地場産業は、従来の五〇%、もしくは、それ以下しか操業していない。だから、金利を下げ、産業を刺激すべき。

そう、とくに今年に入つてから六〇%も価値の下った通貨の買い支えをやろうとしたことは、評価する。

① レバノンポンド急落問題
自分は、五〇年代後半、六〇年代前半、そして今年の四月頃からも、レバノン中央銀行が介入して作るよう、訴えてきた。中央銀行がレバノン経済を何とかもち直そう、とくに今年に入つてから六〇%も価値の下った通貨の買い支えをやろうとしたことは、評価する。

(2) 不法港閉鎖、正規の税関業務復活の展望

不法港は、レバノン社会で地位、実力をもつ集団が牛耳り、自らの財源としてきた。もし、彼らが、その財源を政府に渡すと、他の財源が確保できたということになる。正規でないルートを使うしかりえない。また、ミリシア解体は、まだまだ遠い未来の話。

(3) 東ベイルートの反ジャジャ戦闘

（九月二七日）

これは、東西ベイルートの力関係、現存の東西勢力範囲を変えていくものとして起こったとは思わない。東ベイルート内部の権力闘争

しかし、自分の意見では、次の一
点において、失敗があつた。ま
ず、レバノンのよな変動制、自
由市場制の国で、市場介入するには、十分な資金が必要だが、これ
が不足した。三月に介入した時に
は、一ドル／一九・四〇ポンドに
おさえようとしたのが、うまくい
かず、三億ドルを失つたと思う。
現在までに、八六年度で計七億ド
ルを失っている。

次に、機密保持ができなかつた
こと。なぜかはわからないも、中
央銀行が介入する時が市場にもれ
てしまつて、せつかくの介入が成
立しえなかつた。

(4) 現在の問題

争であろう。つまり、ピエール・ジエマイエルが死んでから、彼一人の党であったファランジ党（フランジ党は、近代歐米的な政党ではない）内で、分解が進行しているのである。これは、いわば、古典的な権力抗争というものである。もちろん、ホベイカは、東ベイルート外から東ベイルートに攻めこもうとはしたが、東ベイルート内の潮流がこれと連動した。注目すべきは、山岳部から攻めこんだというのではなく、ベイルートから攻めこんだという面だが、それでも古典的な意味の権力抗争といふことに変わりはない。

(5) レバノン問題の根本

南部問題を解決することである。なぜなら、全ては南部問題からスタートし、レバノンの政治システムがそれに規制されて、現在に到つているからである。また、レバノンの南部問題解決には、一定の国際的緊張緩和が必要である。中東問題の一部がレバノン問題である以上、レバノンが一国レベルで解決できない分野が残るし、これは、国際的な緊張緩和がない限り、解決できない。

その意味で、この四～五ヶ月間

三 サイダ州選出議員ビズリ氏
サイダ近郊のパレスチナ・キャンプに、アラファト派が勢力固めを強化している。その目的は、対イスラエル戦用というものではない。我々の側は、定期的に、サイダ政治評議会、アル、PNSFの三者で会合をもち、汎アラブ主義から「個別利益対立」矛盾解決を行つてきている。（パレスチナ・キャンプの地位について、ベイルート方式で行いつたいし、八二年前の状態にはもどらない。）

（編注）一つの国に、一つの法律と、一つの原則に従い、八二年以前にパレスチナ・キャンプが享受していた治外法権を認めないと、いうこと。（ベイルート方式とは、正規の軍隊以外の武装は認めない、ミニシアの武装解除、キャンプ内治安維持、安全保障は協議のうえ、決定された正規の機関が責任をもつて、というもの。）

（マンデー・モーニング誌とのインタビュー主旨）

で、国際レベルでの歓迎すべき出来事がある。つまり、今までソ連はUNIFILの南部駐留に消極的であったが、財政上の参加、東欧部隊の参加等、UNIFIL支持に転換してきている。が、南部問題の発展の速度が、レバノンの他の発展をしのいでいくのが心配である。

（2）なぜレバノンのアラブ的性格が問題なのか？
レバノンは、アラビア語を使う、アラブ国の一つである。が、アラブ的性格というのは、そういう問題である。この意味で、アラブの側に立つ立場をとると、イスラエルがレバノン一国から撤退し、レバノンに対して何ら含むところがないといふことになるとしても、ゴラン、西岸がイスラエルに占領されていることに對して、アラブとして責任を負うのである。つまり、アラブという時、レバノン人の自分は、レバノンであるなしにかかるらずアラブの土地をイスラエルが占領しているのに痛みと責任を感じるごとく、他のアラブ人

（ユーロ要約）

（九月一日（月））
一九八六年九月一日（火）
一〇月二日（水）
九月四日（木）
九月五日（金）
九月六日（土）
九月七日（日）
九月八日（月）
九月九日（火）
九月十日（水）
九月十一日（木）
九月十二日（金）
九月十三日（土）
九月十四日（日）
九月十五日（月）
九月十六日（火）
九月十七日（水）
九月十八日（木）
九月十九日（金）
九月二十日（土）
九月廿一日（日）
九月廿二日（月）
九月廿三日（火）
九月廿四日（水）
九月廿五日（木）
九月廿六日（金）
九月廿七日（土）
九月廿八日（日）
九月廿九日（月）
九月卅日（火）
九月卅一日（水）
九月卅二日（木）
九月卅三日（金）
九月卅四日（土）
九月卅五日（日）
九月卅六日（月）
九月卅七日（火）
九月卅八日（水）
九月卅九日（木）
九月四十日（金）
九月卅一日（土）
九月卅二日（日）
九月卅三日（月）
九月卅四日（火）
九月卅五日（水）
九月卅六日（木）
九月卅七日（金）
九月卅八日（土）
九月卅九日（日）
九月卅日（月）
九月卅一（火）
九月卅二（水）
九月卅三（木）
九月卅四（金）
九月卅五（土）
九月卅六（日）
九月卅七（月）
九月卅八（火）
九月卅九（水）
九月卅日（木）
九月卅一（金）
九月卅二（土）
九月卅三（日）
九月卅四（月）
九月卅五（火）
九月卅六（水）
九月卅七（木）
九月卅八（金）
九月卅九（土）
九月卅日（日）
九月卅一（月）
九月卅二（火）
九月卅三（水）
九月卅四（木）
九月卅五（金）
九月卅六（土）
九月卅七（日）
九月卅八（月）
九月卅九（火）
九月卅日（水）
九月卅一（木）
九月卅二（金）
九月卅三（土）
九月卅四（日）
九月卅五（月）
九月卅六（火）
九月卅七（水）
九月卅八（木）
九月卅九（金）
九月卅日（土）
九月卅一（日）
九月卅二（月）
九月卅三（火）
九月卅四（水）
九月卅五（木）
九月卅六（金）
九月卅七（土）
九月卅八（日）
九月卅九（月）
九月卅日（火）
九月卅一（水）
九月卅二（木）
九月卅三（金）
九月卅四（土）
九月卅五（日）
九月卅六（月）
九月卅七（火）
九月卅八（水）
九月卅九（木）
九月卅日（金）
九月卅一（土）
九月卅二（日）
九月卅三（月）
九月卅四（火）
九月卅五（水）
九月卅六（木）
九月卅七（金）
九月卅八（土）
九月卅九（日）
九月卅日（月）
九月卅一（火）
九月卅二（水）
九月卅三（木）
九月卅四（金）
九月卅五（土）
九月卅六（日）
九月卅七（月）
九月卅八（火）
九月卅九（水）
九月卅日（木）
九月卅一（金）
九月卅二（土）
九月卅三（日）
九月卅四（月）
九月卅五（火）
九月卅六（水）
九月卅七（木）
九月卅八（金）
九月卅九（土）
九月卅日（日）
九月卅一（月）
九月卅二（火）
九月卅三（水）
九月卅四（木）
九月卅五（金）
九月卅六（土）
九月卅七（日）
九月卅八（月）
九月卅九（火）
九月卅日（水）
九月卅一（木）
九月卅二（金）
九月卅三（土）
九月卅四（日）
九月卅五（月）
九月卅六（火）
九月卅七（水）
九月卅八（木）
九月卅九（金）
九月卅日（土）
九月卅一（日）
九月卅二（月）
九月卅三（火）
九月卅四（水）
九月卅五（木）
九月卅六（金）
九月卅七（土）
九月卅八（日）
九月卅九（月）
九月卅日（火）
九月卅一（水）
九月卅二（木）
九月卅三（金）
九月卅四（土）
九月卅五（日）
九月卅六（月）
九月卅七（火）
九月卅八（水）
九月卅九（木）
九月卅日（金）
九月卅一（土）
九月卅二（日）
九月卅三（月）
九月卅四（火）
九月卅五（水）
九月卅六（木）
九月卅七（金）
九月卅八（土）
九月卅九（日）
九月卅日（月）
九月卅一（火）
九月卅二（水）
九月卅三（木）
九月卅四（金）
九月卅五（土）
九月卅六（日）
九月卅七（月）
九月卅八（火）
九月卅九（水）
九月卅日（木）
九月卅一（金）
九月卅二（土）
九月卅三（日）
九月卅四（月）
九月卅五（火）
九月卅六（水）
九月卅七（木）
九月卅八（金）
九月卅九（土）
九月卅日（日）
九月卅一（月）
九月卅二（火）
九月卅三（水）
九月卅四（木）
九月卅五（金）
九月卅六（土）
九月卅七（日）
九月卅八（月）
九月卅九（火）
九月卅日（水）
九月卅一（木）
九月卅二（金）
九月卅三（土）
九月卅四（日）
九月卅五（月）
九月卅六（火）
九月卅七（水）
九月卅八（木）
九月卅九（金）
九月卅日（土）
九月卅一（日）
九月卅二（月）
九月卅三（火）
九月卅四（水）
九月卅五（木）
九月卅六（金）
九月卅七（土）
九月卅八（日）
九月卅九（月）
九月卅日（火）
九月卅一（水）
九月卅二（木）
九月卅三（金）
九月卅四（土）
九月卅五（日）
九月卅六（月）
九月卅七（火）
九月卅八（水）
九月卅九（木）
九月卅日（金）
九月卅一（土）
九月卅二（日）
九月卅三（月）
九月卅四（火）
九月卅五（水）
九月卅六（木）
九月卅七（金）
九月卅八（土）
九月卅九（日）
九月卅日（月）
九月卅一（火）
九月卅二（水）
九月卅三（木）
九月卅四（金）
九月卅五（土）
九月卅六（日）
九月卅七（月）
九月卅八（火）
九月卅九（水）
九月卅日（木）
九月卅一（金）
九月卅二（土）
九月卅三（日）
九月卅四（月）
九月卅五（火）
九月卅六（水）
九月卅七（木）
九月卅八（金）
九月卅九（土）
九月卅日（日）
九月卅一（月）
九月卅二（火）
九月卅三（水）
九月卅四（木）
九月卅五（金）
九月卅六（土）
九月卅七（日）
九月卅八（月）
九月卅九（火）
九月卅日（水）
九月卅一（木）
九月卅二（金）
九月卅三（土）
九月卅四（日）
九月卅五（月）
九月卅六（火）
九月卅七（水）
九月卅八（木）
九月卅九（金）
九月卅日（土）
九月卅一（日）
九月卅二（月）
九月卅三（火）
九月卅四（水）
九月卅五（木）
九月卅六（金）
九月卅七（土）
九月卅八（日）
九月卅九（月）
九月卅日（火）
九月卅一（水）
九月卅二（木）
九月卅三（金）
九月卅四（土）
九月卅五（日）
九月卅六（月）
九月卅七（火）
九月卅八（水）
九月卅九（木）
九月卅日（金）
九月卅一（土）
九月卅二（日）
九月卅三（月）
九月卅四（火）
九月卅五（水）
九月卅六（木）
九月卅七（金）
九月卅八（土）
九月卅九（日）
九月卅日（月）
九月卅一（火）
九月卅二（水）
九月卅三（木）
九月卅四（金）
九月卅五（土）
九月卅六（日）
九月卅七（月）
九月卅八（火）
九月卅九（水）
九月卅日（木）
九月卅一（金）
九月卅二（土）
九月卅三（日）
九月卅四（月）
九月卅五（火）
九月卅六（水）
九月卅七（木）
九月卅八（金）
九月卅九（土）
九月卅日（日）
九月卅一（月）
九月卅二（火）
九月卅三（水）
九月卅四（木）
九月卅五（金）
九月卅六（土）
九月卅七（日）
九月卅八（月）
九月卅九（火）
九月卅日（水）
九月卅一（木）
九月卅二（金）
九月卅三（土）
九月卅四（日）
九月卅五（月）
九月卅六（火）
九月卅七（水）
九月卅八（木）
九月卅九（金）
九月卅日（土）
九月卅一（日）
九月卅二（月）
九月卅三（火）
九月卅四（水）
九月卅五（木）
九月卅六（金）
九月卅七（土）
九月卅八（日）
九月卅九（月）
九月卅日（火）
九月卅一（水）
九月卅二（木）
九月卅三（金）
九月卅四（土）
九月卅五（日）
九月卅六（月）
九月卅七（火）
九月卅八（水）
九月卅九（木）
九月卅日（金）
九月卅一（土）
九月卅二（日）
九月卅三（月）
九月卅四（火）
九月卅五（水）
九月卅六（木）
九月卅七（金）
九月卅八（土）
九月卅九（日）
九月卅日（月）
九月卅一（火）
九月卅二（水）
九月卅三（木）
九月卅四（金）
九月卅五（土）
九月卅六（日）
九月卅七（月）
九月卅八（火）
九月卅九（水）
九月卅日（木）
九月卅一（金）
九月卅二（土）
九月卅三（日）
九月卅四（月）
九月卅五（火）
九月卅六（水）
九月卅七（木）
九月卅八（金）
九月卅九（土）
九月卅日（日）
九月卅一（月）
九月卅二（火）
九月卅三（水）
九月卅四（木）
九月卅五（金）
九月卅六（土）
九月卅七（日）
九月卅八（月）
九月卅九（火）
九月卅日（水）
九月卅一（木）
九月卅二（金）
九月卅三（土）
九月卅四（日）
九月卅五（月）
九月卅六（火）
九月卅七（水）
九月卅八（木）
九月卅九（金）
九月卅日（土）
九月卅一（日）
九月卅二（月）
九月卅三（火）
九月卅四（水）
九月卅五（木）
九月卅六（金）
九月卅七（土）
九月卅八（日）
九月卅九（月）
九月卅日（火）
九月卅一（水）
九月卅二（木）
九月卅三（金）
九月卅四（土）
九月卅五（日）
九月卅六（月）
九月卅七（火）
九月卅八（水）
九月卅九（木）
九月卅日（金）
九月卅一（土）
九月卅二（日）
九月卅三（月）
九月卅四（火）
九月卅五（水）
九月卅六（木）
九月卅七（金）
九月卅八（土）
九月卅九（日）
九月卅日（月）
九月卅一（火）
九月卅二（水）
九月卅三（木）
九月卅四（金）
九月卅五（土）
九月卅六（日）
九月卅七（月）
九月卅八（火）
九月卅九（水）
九月卅日（木）
九月卅一（金）
九月卅二（土）
九月卅三（日）
九月卅四（月）
九月卅五（火）
九月卅六（水）
九月卅七（木）
九月卅八（金）
九月卅九（土）
九月卅日（日）
九月卅一（月）
九月卅二（火）
九月卅三（水）
九月卅四（木）
九月卅五（金）
九月卅六（土）
九月卅七（日）
九月卅八（月）
九月卅九（火）
九月卅日（水）
九月卅一（木）
九月卅二（金）
九月卅三（土）
九月卅四（日）
九月卅五（月）
九月卅六（火）
九月卅七（水）
九月卅八（木）
九月卅九（金）
九月卅日（土）
九月卅一（日）
九月卅二（月）
九月卅三（火）
九月卅四（水）
九月卅五（木）
九月卅六（金）
九月卅七（土）
九月卅八（日）
九月卅九（月）
九月卅日（火）
九月卅一（水）
九月卅二（木）
九月卅三（金）
九月卅四（土）
九月卅五（日）
九月卅六（月）
九月卅七（火）
九月卅八（水）
九月卅九（木）
九月卅日（金）
九月卅一（土）
九月卅二（日）
九月卅三（月）
九月卅四（火）
九月卅五（水）
九月卅六（木）
九月卅七（金）
九月卅八（土）
九月卅九（日）
九月卅日（月）
九月卅一（火）
九月卅二（水）
九月卅三（木）
九月卅四（金）
九月卅五（土）
九月卅六（日）
九月卅七（月）
九月卅八（火）
九月卅九（水）
九月卅日（木）
九月卅一（金）
九月卅二（土）
九月卅三（日）
九月卅四（月）
九月卅五（火）
九月卅六（水）
九月卅七（木）
九月卅八（金）
九月卅九（土）
九月卅日（日）
九月卅一（月）
九月卅二（火）
九月卅三（水）
九月卅四（木）
九月卅五（金）
九月卅六（土）
九月卅七（日）
九月卅八（月）
九月卅九（火）
九月卅日（水）
九月卅一（木）
九月卅二（金）
九月卅三（土）
九月卅四（日）
九月卅五（月）
九月卅六（火）
九月卅七（水）
九月卅八（木）
九月卅九（金）
九月卅日（土）
九月卅一（日）
九月卅二（月）
九月卅三（火）
九月卅四（水）
九月卅五（木）
九月卅六（金）
九月卅七（土）
九月卅八（日）
九月卅九（月）
九月卅日（火）
九月卅一（水）
九月卅二（木）
九月卅三（金）
九月卅四（土）
九月卅五（日）
九月卅六（月）
九月卅七（火）
九月卅八（水）
九月卅九（木）
九月卅日（金）
九月卅一（土）
九月卅二（日）
九月卅三（月）
九月卅四（火）
九月卅五（水）
九月卅六（木）
九月卅七（金）
九月卅八（土）
九月卅九（日）
九月卅日（月）
九月卅一（火）
九月卅二（水）
九月卅三（木）
九月卅四（金）
九月卅五（土）
九月卅六（日）
九月卅七（月）
九月卅八（火）
九月卅九（水）
九月卅日（木）
九月卅一（金）
九月卅二（土）
九月卅三（日）
九月卅四（月）
九月卅五（火）
九月卅六（水）
九月卅七（木）
九月卅八（金）
九月卅九（土）
九月卅日（日）
九月卅一（月）
九月卅二（火）
九月卅三（水）
九月卅四（木）
九月卅五（金）
九月卅六（土）
九月卅七（日）
九月卅八（月）
九月卅九（火）
九月卅日（水）
九月卅一（木）
九月卅二（金）
九月卅三（土）
九月卅四（日）
九月卅五（月）
九月卅六（火）
九月卅七（水）
九月卅八（木）
九月卅九（金）
九月卅日（土）
九月卅一（日）
九月卅二（月）
九月卅三（火）
九月卅四（水）
九月卅五（木）
九月卅六（金）
九月卅七（土）
九月卅八（日）
九月卅九（月）
九月卅日（火）
九月卅一（水）
九月卅二（木）
九月卅三（金）
九月卅四（土）
九月卅五（日）
九月卅六（月）
九月卅七（火）
九月卅八（水）
九月卅九（木）
九月卅日（金）
九月卅一（土）
九月卅二（日）
九月卅三（月）
九月卅四（火）
九月卅五（水）
九月卅六（木）
九月卅七（金）
九月卅八（土）
九月卅九（日）
九月卅日（月）
九月卅一（火）
九月卅二（水）
九月卅三（木）
九月卅四（金）
九月卅五（土）
九月卅六（日）
九月卅七（月）
九月卅八（火）
九月卅九（水）
九月卅日（木）
九月卅一（金）
九月卅二（土）
九月卅三（日）
九月卅四（月）
九月卅五（火）
九月卅六（水）
九月卅七（木）
九月卅八（金）
九月卅九（土）
九月卅日（日）
九月卅一（月）
九月卅二（火）
九月卅三（水）
九月卅四（木）
九月卅五（金）
九月卅六（土）
九月卅七（日）
九月卅八（月）
九月卅九（火）
九月卅日（水）
九月卅一（木）
九月卅二（金）
九月卅三（土）
九月卅四

- カラチ
- ・パンナム機ハイジャック闘争。突入され敗北。
- 九月六日（土）
- PLO再統一の努力
- ・プラハ宣言採択・公表。
- リビア
- ・キューバ、ニカラグア、リビア三カ国で防衛協力条約に調印（ハララにて）。九月四日、「木」にを発表。
- カラチのパンナム闘争
- ・非同盟諸国首脳会議から帰国したハク、「四人の犯人を裁判にかける」と発表。
- イスタンブールのシナゴーグで銃撃闘争
- 死者二〇人くらい。同シナゴーグには、モサドのエージェントが会合していたようだ。
- マーク・カイロへ。
- 九月七日（日）
- イスラエル
- ・イスタンブール闘争に関して、ペレスが「必ず、追跡し、片をつけ」と豪語。
- ・ペレスの政策が「パレスチナ人に對して妥協的であること」がイスタンブール闘争の元凶と、ペレス批判していたシャロン、謝罪。内

外務省、四年ぶりに駐テルアビブ大使任命。モハムマド・バスユウニが本日着任。

・シラク、アルジェリア入り（アルジェリア在住仏人人口＝八〇万人）。

・カイロの文化センター設立第一段階予算二七〇〇万ドルを日帝が供与（対エジプト援助総額は、一億二三〇〇万ドル）。

九月一四日（日）

・南部レジスタンス、「SLA」兵三名せん滅し、四名負傷さす。

イスラエル

・ペレス、訪米。中東和平にソ連を参加させぬことでレーガンと合意。

OPEC

・創立二十六周年。

イラク

・カラチ郊外で、駐カラチイラク代理総領事が車爆弾で、死亡。

・ハンガリー大統領、シリア三日間訪問開始。

イスラエル

・カイロ・アンマン銀行支店が西

ハーシム郵政相（ファランジスト、アミン顧問）「閣議も、対話委員会も、行政執行能力がないので、決定されても執行されるというこ

とに違わない。ミリシアが本気でひき渡すつもりがあるか否かが、決定要因である」

ヨルダン

・中央銀行総裁、西岸視察。

ヨルダン

・外相、ムバラクとの会談を終え、差はあるが。

九月一一日（木）

日本

・SDI参加を閣議決定。SDI参加は、英、西独、イスラエル、伊

に次ぎ、五番目である。参加方式の差はあるが。

ヨルダン

・中央委員のシェソン、チュニス入り。アラブ連盟会長、アラファト議長とも会見予定。

E C

・ペレス、ムバラクとの会談を終え、帰國。直前の記者会見で「八七年を交渉の年とする」と豪語。

イスラエル

・中東委員のシェソン、チュニス入り。アラブ連盟会長、アラファト議長とも会見予定。

ガルフ戦

・ペレス・ムバラク会談、アレキサンドリアで開始。

ヨルダン

・南部レジスタンス

・南部レジスタンス、SLA兵七名せん滅。数カ村が、イスラエル空軍に爆撃さる。

ヨルダン

・リファイ首相、西岸にカイロ・アラブ九カ国議員一〇〇名が参加。

ヨルダン

員としては初の公式会談)。

- モロッコ
- ・モロッコ系ユダヤ人大会、開催。
- 伊
- ・ファイアット社、リビアの同社持株
を買いとる(三一億ドル)。SD
I 参加条件をやつと獲得。
- 九月二五日(木)
- レバノン
- ・南部レジスタンス
- ・サイダ近郊のミエ・ミエ・キャン
プ、爆撃さる。
- シリア
- ・海軍、実弾演習。
- 九月二六日(金)
- レバノン
- ・南部レジスタンス
- ベカーレ、ハジビツラ一拠点、口
ケット砲攻撃受けた。

- ・ラビン、「レバノン南部の「SLA」支配区をアマルに徐々に引き渡す。そのかわりに、イスラエル北部国境の安全を維持すること」というイスラエル提案に対し、「まず撤退せよ。その後のことは、撤退後に検討する」とベリの拒否があつたと語る。
- 九月二七日（土）
南部レジスタンス
「SLA」にカチューシャ（ロケット

		'84の総選挙時 支持率比
労働党連合	46.1%	+ 9.0%
労働党支持党派	6.6%	+ 1.1%
リクード連合	22.8%	- 9.1%
リクード連合 支持党派	8.6%	+ 3.4%
全宗教政党	7.8%	- 3.6%
共産党含む 進歩政党	5.1%	- 1.3%

- ・イスラエル
・西岸三市（ヘブロン、ラマッラー、アル・ビレ）市長任命。これで西岸二六市の「市長」は全てイスラエル「任命」市長化。
- ・イスラエルが中性子爆弾保有とい
う暴露問題につき、公報相が、「解
雇を恨んだ技師のデマ宣伝」。
- 九月二九日（月）
レバノン
・東ベイルートの反ジャジャ戦
ジャジャ、「逮捕した者の中、
シリア軍、アマルとはつきり身許
の知れる者が数名いる」と発言。

- ・ 東ベイルートで、反ジャジャ戦。
- ・ ホベイカ派が東ベイルートにアシラフィエークから突入し、一〇時間の戦闘。レバノン国軍の介入で、やつと突入阻止（アミンの個人的指揮とされる）。
- ・ カラミ首相、サイダ、スール現地観察。
- ・ イスラエル兵、刺される。
- ・ 世論調査によると、次の総選挙政党支持。

- ・「国際会議は、代表を出し、長い演説のやりとり、白熱した議論だけで、目的達成は困難」と、シャルミル、再び国際会議反対表明。
- ・九月二八日（月）ダッカ同志奪還闘争九周年記念日
- ・東ベイルートの反ジャジャ戦
- ・レバノン第五軍団司令官（クリスチャーン）、暗殺される。レバノン第五三大隊指揮官の自宅、放火される。
- ・ジャジャ、記者会見し、「解決は間近」。
- ・ソ連イスラム会議出席（一〇月一日（一〇月四日））に向け、スンニ、シーア両宗派リーダーが出発す。
- ・イスラエル

- ・市民をまきぞえにするようなやり方を批判すると同時に、テロルの元凶、イスラエルの蛮行をまず統制するよう、国際世論に呼びかけるシリアル
- ・アサド大統領、ジュンブラットと会談。
ヨルダン
- ・訪英中のフセイン、サッチャーと会談。
- 九月二一日（日）
レバノン
- ・南部レジスタンス
U N I F I L 仏部隊が、アツバシエの拠点をネパール部隊に引き渡し、スールへ撤退。過去二週間に一〇カ所の拠点を放棄したことになる。
- ・国会議長フセイニ、シリアル訪問。
アサド大統領と会談。

心としたが六ヶ月に集中内閣は、八四一八八の四年間に二七の入植村建設を確認してスタートしてきている。現在、西岸、ガザ合わせて、ユダヤ人入植者人口は六万へパレスチナ人口は一三〇万人とされる。イスラエルは、五〇万人の入植者で人口バランスを作ることを狙っているとされる)。

米帝

九月二二日(月)

レバノン

- ・エジプトに六億四九〇〇万ドルの供与(一本会計年度の対エジプト援助総額は二三億ドル—米下院通過了)。

・南部レジスタンス

イスラエル軍、イスラエル国境に八五年来最大の集結。

レバノン内相、「イスラエルが「セキユリティ・ゾーン」拡大を狙っているかもしけぬ。南部問題の最良の解決法は、決議四二五の実行と語る。

- 南部レジスタンス
UNIFIL仮部隊、ロケット砲攻撃受ける。被害、甚大。これを期にこの拠点からも仮部隊は撤退する。仮部隊は、前線拠点一ヵ所しか守らないことになる。アミンは「UN部隊が撤退したら、イスラエルが再占領に動き、住民がベイルートに流入し、そしてイスラム原理主義派がますます激化していくことになる」と語る。
- 第五回「対話会議」
南部の問題について検討（以後の会議日程、めど立たず）。
- 国連安保理
UNIFILをレバノン＝イスラエル国境に配備する決議投票（イスラエル反対、米棄権）。

- ・ 一〇月四日（土）に、ガルフ戦による海運、安全問題協議予定を発表。
九月二四日（水）
レバノン
- ・ 国連安保理、「レバノン当局が了解を与えていない軍事力を南レバノンから出す」ことを呼びかける。UNIFILをイスラエル国境まで南下させることになり、イスラエルは反対、米は棄権。
- ・ ベリ
“SLA”が南部制圧の機能を果たせぬことが明白になつたら、イスラエルは、電撃攻撃を南部レジスタンス拠点にかけ続け、イスラエルの直接支配下におこうとしている”
- ・ アミン、大統領就任四周年記念集会
南部レバノンの一触即発の緊張に對処するべく、閣僚たちに”歴史的な会合”（対話委員会）成功さすよう、アピール。

- ・ 南部レジスタンス
イスラエル兵三名を負傷さす。イスラエル－レバノン国境で。イスラエルは、ヘリで数カ村を攻撃。
カラミ首相、『「対話委員会」の金二三は多く、日本も、

- ・西岸入植攻勢

・ 経企相以下代表団、ワシントン入り。対米軍事負債金利引き下げ、一括繰りのベ払い等の要求をもつて行くとされる。

- ・ ポリサリオの暴露によると、イスラエル軍事視察団（五名の高級将校）が、ハツサンの後継者シディ・モハムメド皇太子の案内で西サ

クリスチヤン右派内の権力闘争ではないというキャンペーン。

シリヤ

・カッダム副大統領、ヨルダン記者

団と会見。

“シリヤは、敵帝國主義、イスラ

エルとの対決において、民族的責任を担い続ける。この民族的責任の遂行は、二義的紛争による搅乱や妨害をはねのけてなされるであ

る。

ヨルダン

・フセイン（国王）、三週間の訪英から帰国。

・ラビン戦争相、三人の西岸市長

「任命」は、PLOのかわりに「穩健派」の力を西岸で強めていくための努力の一環」と語る。

ヨルダン

・国務省スポーツマン

・レバノンは、ヨリシア解体し、ISF（国内治安部隊—通称セツタアン）が治安確立を行うべき”

九月三十日（火）

・南部レジスタンス
ラシャディエ・キャンプをシーア派が包囲、攻撃。

（編注…昨日、アマルのパトロー

ル隊が、同キャンプ近くで、ロケ

ル隊が、同キャンプ近くで、ロケット砲攻撃を受けた。）

・東ベイルートの反ジャジャ戦

マロン派主教が「暴力沙汰に反対す。合法的な軍隊のみ、受け入れる」と声明。

・フランス

①「対話委員会」の継続、②UN

I F I L 駐留継続を定例記者会見で訴える。

・新任米大使ケリーが、アミン訪問。

・アサド大統領、ヨルダン記者団と会見。アラブ統一の重要性について、強調。

・パレスチナ革命勢力

・アブ・ニダル派、西岸三市の「任命された市長」に処刑予告宣言。

・イスラエル

・副農相、ヨルダン農業省使節団の西岸訪問を発表。八六一八七年度の西岸農産物の対ヨルダン輸出割当量決定のため（「西岸開発計画」の実動）。

・ベレス、一〇月一〇日に辞表提出と、声明（首相交代）。

・シャミル、ヨルダンに対し、直接交渉に応じるよう、呼びかける。

・この数日間で、西岸のトルクラム

レバノン

・南部レジスタンス
ラシャディエ・キャンプをシーア派が包囲、攻撃。

（編注…昨日、アマルのパトロー

ドーナムを、強制収用。

・ドーガン、一〇月二日～一二日の

マロン派主教が「暴力沙汰に反対す。合法的な軍隊のみ、受け入れる」と声明。

・フランス

・新任米大使ケリーが、アミン訪問。

・アサド大統領、ヨルダン記者団と会見。アラブ統一の重要性について、強調。

・パレスチナ革命勢力

・アブ・ニダル派、西岸三市の「任命された市長」に処刑予告宣言。

・イスラエル

・副農相、ヨルダン農業省使節団の西岸訪問を発表。八六一八七年度の西岸農産物の対ヨルダン輸出割当量決定のため（「西岸開発計画」の実動）。

・ベレス、一〇月一〇日に辞表提出と、声明（首相交代）。

・シャミル、ヨルダンに対し、直接交渉に応じるよう、呼びかける。

・この数日間で、西岸のトルクラム

レバノン

・南部レジスタンス
ラシャディエ・キャンプをシーア派が包囲、攻撃。

（編注…昨日、アマルのパトロー

ドーナムを、強制収用。

・外相マスリ、国連で中東和平国際会議を提唱。

・スエズ運河通行料、値上げ。

・イギリス

・本日から、IMF、世銀年次総会、

・米帝

・ドーガン、一〇月二日～一二日の

ソメ首脳会談（アイスランドのレキヤビク）を公表。

・レバノン

・ジュンブラット、東独で共産党

会議。中東和平国際会議組織化準備委員会設置の必要性に双方合意。

・エジプト

・一〇月二日（木）

・ドーガンを、強制収用。

・外相マスリ、国連で中東和平国際会議を提唱。

・エジプト

・外務次官、イスラエル公式訪問。

・一〇月一日（水）

・東ベイルートの反ジャジャ戦

・グループ選挙で確定）。

・外務次官、イスラエル公式訪問。

・一〇月一日（水）

・東ベイルートの反ジャジャ戦

・ジュンブラット、東独で共産党

会議。中東和平国際会議組織化準備委員会設置の必要性に双方合意。

・レバノン

・ドーガンを、強制収用。

・外相マスリ、国連で中東和平国際会議を提唱。

・エジプト

・外務次官、イスラエル公式訪問。

・一〇月一日（水）

・東ベイルートの反ジャジャ戦

・ジュンブラット、東独で共産党

会議。中東和平国際会議組織化準備委員会設置の必要性に双方合意。

・エジプト

・外務次官、イスラエル公式訪問。

・一〇月一日（水）

・ドーガンを、強制収用。

・外相マスリ、国連で中東和平国際会議を提唱。

・エジプト

・外務次官、イスラエル公式訪問。

朝晩の冷え込みが、めつきりきびしくなってきた。日本なら灯火親しむ候だが、こちらは、一年中停電が多いから、一年中灯火親しむ。日本から届く「中東レポート」を、小さな机の上に飾って、毎日、灯火親しむ。

そして、小さな机の上には、日本ベイカもベカーのザハレで記者会見

「ジャジャーマロン派主教会談」「軍リーダーと宗派リーダーのいきなり、解決した」とジャジャ。

ホベイカもベカーノザハレで記者会見

「人間と土地を解放し、自由を守り、内戦を終結させ、レバノンを再統一するため、平和達成のために、我々は、これからも闘う」と闘争宣言。

お過しだろうか？

編集後記

